

偽上の住宅

日本の新築住宅の犠牲になる欧州の原生林

目次

- 3 前書き
- 4 第1章 ルーマニアにおける違法伐採
- 6 第2章 シュバイクホファー社の事例
 - 6 2.1 背景
 - 9 2.2 EIAレポート(2015年)発表以降の展開
 - 10 2.3 シュバイクホファー社によるウクライナからの高リスク輸入木材
- 12 第3章 シュバイクホファー社と日本市場とのつながり
- 13 第4章 日本は今すぐ違法伐採対策を強化すべき
 - 13 4.1 日本の不十分な対策の現状
 - 13 4.2 十分なデューデリジェンスの必要性
- 14 結論
- 14 提言
- 15 参考文献



非営利組織として25年以上活動するEIAは、覆面調査を導入し、世界中の環境犯罪を暴く先駆者となりました。EIAは各種報告書、証拠書類、キャンペーンに関する専門知識、そして国際的な提言活動ネットワークを活用し、市場の需要、政府の政策、および野生物や環境関連製品に関する国際取引の法の施行を優先的に変化させることにより、広範囲にわたる環境保護を可能にしました。

補足と図式

- 5 ルーマニアにおける違法伐採の種類
- 7 シュバイクホファー社の工場の場所
- 8 シュバイクホファー社の木材サプライチェーンの違法性について
- 10 シュバイクホファー社によるウクライナからルーマニアへの木材輸入(2010年~2015年)
- 12 シュバイクホファー・ルーマニア社の日本顧客売上高上位10社一覧
- 13 シュバイクホファー社のルーマニアから日本への輸出(2010年~2015年)

謝辞

EIAは以下の資金提供者のご支援に感謝申し上げます:

The Tilia Fund
Good Energies Foundation
Weeden Foundation
The Cox Fund

© Environmental Investigation Agency 2016.

Environmental Investigation Agency, Inc. の文書による許可なしに、この報告書をいかなる形態、いかなる手段で複製することを禁止します。この報告書の内容は、EIAへの資金提供者の意見を必ずしも反映するものではなく、この内容はEIAのみが全面的に責任を負うものです。

表紙: Agent Green

付記: Ecostorm



前書き

ルーマニアのレテザット国立公園

Agent Green

日本企業の木材調達、ヨーロッパに残された最後の原生林における違法伐採を加速させている。¹ オーストリアの林産企業Holzindustrie Schweighofer (シュバイクホファー)社は2002年にルーマニアに進出して以降、同社の調達方針に基づき、違法伐採を助長してきた。² 2015年、ルーマニア政府は同社の調査を開始。その中間報告によるとシュバイクホファー社の工場において10万m³もの丸太が未登録状態であったこと、シュバイクホファー社の木材調達担当者が違法木材ロンダリングを行う犯罪ネットワークに関与していたことなどが判明した。³ EIAが入手した新たな証拠によれば、同社のラミナ・集成材の5割近くは日本のバイヤー向けであり、日本の大手有名商社も含まれることが明らかになった。⁴

シュバイクホファー社は2002年にオーストリアの事業を売却した後、ルーマニアの林産業に多額の投資をしてきた。いまやルーマニア最大手の針葉樹製材企業に成長し、主に欧州諸国、日本、中東諸国への輸出向けに製材、集成材 (glulam) と木質バイオマスを生産している。⁵ 2014年の同社の輸出の47%が日本向けであった。⁶ またシュバイクホファー社の対日輸出の半分以上がオウシュウトウヒ (ホワイトウッド) の構造材である。⁷ また、2015年の日本向け輸出は42%を占め、主に住宅建築用のアカマツ (レッドウッド) の集成梁とフリー板だった。⁸ 2015年の対日売上はおおよそ200億円であった。⁹

違法伐採はルーマニアのメディア、政府、市民社会から、蔓延する社会的病理として広く認識されている。¹⁰ ルーマニア政府自身の控えめな推定でも、伐採のほぼ半分が違法に行われているとされている。¹¹

2002年以降2015年までの間、シュバイクホファー社はルーマニア産木材の調達を継続的に増やし、3つの大きな製材所を建設した。¹² しかし、2013年以降、同社の急速な市場シェアの増大と森林・林産業に

おける独占的な経営に対して、メディア、市民、政府の厳しい目が注がれるようになり、¹³ シュバイクホファー社は主な調達元を、ヨーロッパでもっとも汚職が深刻で、¹⁴ 最近ではロシアとの武力衝突が発生している隣国ウクライナに移した。2015年、シュバイクホファー社はウクライナから100万立方メートルにおよぶオウシュウトウヒとオウシュウアカマツの丸太を輸入した。これはルーマニアの製材所で加工される木材の33%に相当する。ウクライナ産木材の多くは日本へ輸出されている。¹⁵

2015年、Environmental Investigation Agency (EIA) は2年にわたる調査の後、ルーマニアの違法伐採に関する詳細な報告書を発表した。¹⁶ この報告書はシュバイクホファー社がルーマニアにおける過去10年の違法伐採の最大の要因となっていることを明らかにした。覆面調査の結果、シュバイクホファー社のルーマニア事業の立ち上げに大きな影響力を行使した同社のオーストリア人幹部が、公然と違法木材を受け入れ、さらに違法木材のサプライヤーにボーナスを提供していたことが判明した。¹⁷ EIAが調査で遭遇した違法伐採事例の大半において、その伐採業者は木材をシュバイクホファー社の工場に販売していた。過去10年におよぶ一連の事例研究を通して、EIAの報告書はシュバイクホファー社が違法木材を受け取っていた具体例を記録し、それがルーマニアの森林、国立公園、コミュニティにどのような影響を与えたかを明らかにした。2015年のEIA報告書の発表後も、同社は変わらず自社の調達には何の問題もないとして、EIAの指摘はすべて虚偽であると主張した。¹⁸ 同社のこの主張は、ルーマニア政府、複数の国際的な報道機関、そしてこの問題について活動しているほぼすべての環境団体からの指摘を否定するものとなった。¹⁹ シュバイクホファー社は書類ベースの手続きに留まる認証制度を隠れ蓑にしようと試みたが、森林管理協議会 (FSC) は最近、違

法伐採に関する「深刻な申立」があったため同社を調査中であると発表した。²⁰

2016年の新しい報告書では、日本の顧客がルーマニアとウクライナの違法伐採を助長する大きな要因となっていることに焦点をあてている。最近入手したルーマニアの輸出統計を用いて、阪和興業、住友林業、ラムセル (銘建工業)、伊藤忠建材、双日建材を中心としたシュバイクホファー社の日本の大手顧客を特定したが、その大半は少なくとも2010年から継続的にシュバイクホファー社から木材を調達している (p.12の表を参照)。²¹ 大量の高リスク木材が日本やヨーロッパに輸出されていることから、日本やヨーロッパの企業は違法伐採リスクの高い地域から木材を調達する際は、たとえ供給元が問題ないと主張する場合でも、念入りなデューデリジェンスを行う必要がある。

この事例は、日本の自主的な違法伐採対策が、グローバルな規模で起こっている問題に取り組むには、不十分であることを改めて示している。²² 日本政府はすべての日本企業が合法的な輸入木材製品の調達を確保するため、事前対策をとることを義務付ける責任を負っている。

同社のラミナ・集成材の5割近くは日本のバイヤー向けであり、日本の大手有名商社も含まれることが明らかになった。



第1章 ルーマニアにおける違法伐採

Ecostorm

10年以上前から、ルーマニアの政府、メディア、環境活動家はルーマニアの違法伐採を深刻な問題としてとらえてきた。幾つかの種類の違法伐採方法に絞ったルーマニア政府の公式の調査によると、1990年から2011年の間の違法伐採は、同じ期間に伐採された木材全体の24%の8000万m³(金額にして少なくとも50億ユーロに相当)と推定されている。²³ これはあくまで控えめな推定である。なぜなら、多くの違法伐採の方法が含まれていないからだ。例えば、全国で依然として相次ぐ不当・不正な土地の返還プロセスを通じてコミュニティから奪った土地での伐採は含まれていない。²⁴ ルーマニア全国森林インベントリが行った最近の調査は、全国各地の伐採現場を訪問するなど、より詳細な調査手法をとっているが、2008年から2014年の間、毎年880万m³の木材が違法に伐採されたと結論づけている。²⁵ これは同じ期間の総伐採量の49%に当たる。²⁶ しかしながらこの調査は違法な返還によって得た土地での木材など、すべての違法伐採の形態を含んでいるわけではないようである。²⁷

ルーマニア全国森林インベントリが行った最近の調査は、2008年から2014年の間、毎年880万m³の木材が違法に伐採されたと結論づけている。これは同じ期間の総伐採量の49%に当たる。



EIA調査員が現場で目撃した伐採トラック。ナンバープレートが見える。



約1時間後の同じトラック。ナンバープレートが違法に外されている。

EIA

かつての原生林は違法伐採と脆弱な森林ガバナンスによって大きく減少した。公式統計によれば1990年から2012年の間、森林面積が増加したとされているにも関わらず、²⁸ 衛星画像の分析では過去10年間に28万ヘクタールの森林が失われ、うち半分近くが保護区内で起きたことが明らかになった。²⁹ この失われた森林のほぼ半分が国立公園内やその他の保護・保全地域である。³⁰

EIAの調査はルーマニアの森林セクター全体で多くの形態の違法伐採が行われていることを詳細に明らかにした(p.5「ルーマニアにおける違法伐採の種類」)。ルーマニア全土にわたって多く見られる伐採規制違反は、許容伐採量を超えた伐採、違法な皆伐、病気にかかったり悪天候で損傷した樹木を伐採する、いわゆる「衛生伐採」の濫用などが含まれる。

1948年に共産党政権によって没収された土地を含む森林地域の返還プロセスは、1990年代に始まり現在も続いているが、不正行為が横行している。ルーマニア政府は、本来の所有者に返還されるはず

だった公有地のうち少なくとも20%が他者によって違法に取得され、その結果、本来の所有者から不満の声が沸き起こり、違法に取得された土地の広範囲で森林が減少した。³¹ ほとんど場合、政府職員や政治家が絡む組織犯罪集団が、不正文書や賄賂を使って違法な返還をお膳立てしていた。³² シュバイクホファー社にとどまらず、同社を中心とする外国企業がこの制度を利用して過去最高益を上げた。³³ こうした要因に加え森林保護当局の予算不足もあいまって、過去25年余りで著しい森林減少が起き、ルーマニア国内の林産業が低迷してきた。³⁴

ルーマニア政府や地元NGOの調査およびEIAの独自調査に基づけば、ルーマニアで伐採される木材のうち少なくとも50%が違法伐採にあたりEIAは推定している。EIAが調査した違法伐採事例の大半で、違法木材が向かった先はオーストリアの企業、シュバイクホファー社であった。³⁵

ルーマニアにおける違法伐採の種類

違法伐採はさまざまな形態をとるが、そのどれもが長期的に持続可能な生産と野生生物の生息地としての機能を損なう。こうした影響は林産業に依存するコミュニティや森林の生態系の健全性に深刻な影響を及ぼす。

1. 伐採許可制限を越えた伐採：過剰伐採

特定の伐採許可割当量 (APV) の下での制限を超えた伐採が、ルーマニアの森林セクターで最も一般的に見られる違法伐採の形態である。EIAの調査チームが遭遇した伐採現場の事例のほぼすべてで、印の付いた切り株の隣に印の付いていない切り株が発見された。³⁶

環境・水・森林省が2015年5月と6月にセベシュにあるシュバイクホファー社の製材所を対象に行った立ち入り検査では、伐採許可割当量 (APV) の全量を高品質木材として納入したサプライヤーに1 m³あたり10ルーマニア・レイ (2ユーロ) のボーナスを払う仕組みがあることが判明した。³⁷ 承認された伐採の約15%が低品質の薪や枝であったと報告書に記されているように、この仕組みは伐採許可の限度を超えた過剰伐採を誘発する。³⁸ これとは別に、環境・水・森林省の監査で、2014年の9か月間にシュバイクホファー社のセベシュ工場に納入された契約量を上回る12,694 m³の丸太に関して、サプライヤーが運搬書類を偽造していたことも判明した。³⁹

2. 違法な土地返還

土地を含む森林地域の返還のプロセスでは不正が横行している。政府の監査機関であるルーマニア会計検査院の2013年の報告書によると、1990年から2012年に返還された森林地域の推定約20%が違法な返還だった。⁴⁰ ルーマニアの森林地域のおよそ半分が民有林であることから、ルーマニアの森林の約9%で伐採された木材は、本来の所有者から盗まれた土地で伐採されていることとなり、違法に分類される。

3. 衛生伐採規則の濫用——キクイムシの蔓延

ここ数十年、ルーマニアの森林ではキクイムシの蔓延が一層深刻な問題になっている。

ルーマニア全土で見られるケースとして、伐採業者はキクイムシの蔓延を理由に不正に衛生伐採許可を取得し、商業価値のある健康な樹木を伐採している。健康な樹木を含む地域一帯で皆伐したり、⁴¹ もっと極端な場合は衛生伐採の許可を得るために健康な森にわざとキクイムシを広めたりしている。⁴²

4. 整理伐採の濫用——「偶発的」に倒れた木の伐採

ルーマニアの森林法では「偶発的」理由で倒れた樹木、つまり強風や土砂崩れ、雪崩などによって倒れた樹木の伐採を認めている。⁴³ ルーマニア国家統計局の記録によれば、2012年と2013年に50万ヘクタール以上で「偶発的」伐採が行われ、⁴⁴ 2012年には計280万m³、2013年に計360万m³が伐採された。⁴⁵ ルーマニア会計検査院の報告によれば、2012年と2013年に森林当局に義務付けられている収穫前の立ち入り検査が行われたのはわずか4.2%であった。⁴⁶ 同報告書は、これをもとにすると、この2年間



切り株のハンマー印

EcoStorm

に600万m³を超える木材が「偶発的」伐採を装って違法に伐採された疑いがあると述べている。

5. 伐採時の印の欠落

ルーマニア森林法は資格をもつ森林技師が伐採の前にすべての立木に塗料でハンマーの印を目に見えるように付けなければならないと定めている。⁴⁷ 皆伐や円形伐採 (円形の小規模な皆伐) などの場合は伐採ゾーンの周囲の立木のみ印を付けなければならない⁴⁸ しかし、ほとんどの一次伐採や衛生伐採の場合、収穫を始める前に切り株に印を付けなければならない。⁴⁹

ポイント#3の過剰伐採でも述べた通り、EIAの調査では対象となった森林伐採現場の大半で印のない切り株が見つかった。⁵⁰ こうした事例についてEIAが意見を求めた森林専門家は、認可書類に基づけばこうした伐採は違法であることを認めた。⁵¹ 運搬許可要件の濫用 (下記ポイント#6を参照) が広く横行していることを考慮すると、印のあるものとなないものの両方を伐採することで、違法木材のロンダリングが助長されている。

6. 運搬中のスタンプ・書類の欠落

ルーマニアの法律では、直径20 cmを超える丸太は森林から搬出する前に運搬書類 (aviz) に対応した数字を刻印しなければならない。⁵² この運搬書類 (aviz) には伐採現場と区画番号、車両の登録番号と運転手の氏名、運搬先の会社、すべての丸太の正確な大きさ寸法を含む、出荷毎の具体的な情報が記されている。⁵³ 運搬書類 (aviz) は運搬開始前に全国電子木材追跡データベース (SUMAL, Sistem informational integrat de urmărire a materialelor lemnoase) に登録されなければならない。⁵⁴

運搬スタンプがなければ、警察や丸太を購入する企業が運搬中における木材出荷の合法性の根拠を確認することは不可能である。⁵⁵ 林産業の専門家は運搬スタンプ義務の違反は広く横行しており、⁵⁶ 違法木材のロンダリングを助長するものだと認めている。よく行われているのは、木材運搬トラックが一つの運搬書類 (aviz) で何度も運搬することである。つまり合法的に許可されている量の2倍から3倍の木材の密輸が堂々と行われているのである。⁵⁷ 北部マラムレシュ郡の2か所と中部ブザウ郡の1か所のシュバイクホファー社の鉄道基地で、EIAの調査員は貯木場にある丸太の大半に印がないことを確認

した。⁵⁸ ポルシャではEIAの調査員が違法伐採の現場から追跡してきたトラックから印のない丸太が下ろされる様子を撮影した。

7. 偽造書類

シュバイクホファー社の元従業員がEIA調査員に語ったところによれば、ルーマニアでは実体のないペーパーカンパニーが偽造書類を企業に売るビジネスが盛んに行われている。⁵⁹ ルーマニア汚職対策局 (DNA) は2013年のある事件でこの違法活動の具体的な証拠を掴んだ。DNAの調査員がロムシルバの森林局のスタンプがすでに押された白紙の輸送書類 (aviz) の束を入手したのである。その一部はすでに違法木材の運搬に使われていたとみられた。⁶⁰ 予めスタンプの押された書類は事実上、違法木材のロンダリングのための「署名済み白紙手形」である。つまり、森林当局の職員は書類の記載と運搬される実際の木材を照合して確認する作業をまったく行っていないのである。⁶¹

8. 現場での違法伐採

合法的伐採リース地で行われる伐採や政府の統制に正しく記録される伐採の一部は、森林管理規則に違反する伐採施業であり、そのため地域の景観や持続可能性を損なっている。例えば違法な皆伐、きわめてデリケートな淡水の河川や生態系の近くで周辺環境を破壊するような伐採、汚染物質による伐採地の汚染などである。こうした伐採は、限定的な衛生伐採が許可されることもあるNatura 2000保護地域のようなデリケートな場所では、とくに深刻な被害をもたらす。⁶²



丸太の印

EIA



第2章 シュバイクホファー社の事例

ルーマニア・セベシュのシュバイクホファー社の製材所

Agent Green

2.1 背景

シュバイクホファー社は2014年、ルーマニアの針葉樹丸太生産の32%を調達したが、ルーマニアでの調達に関して10年以上にわたり顧客に重大な誤解を与えてきた。シュバイクホファー社は自社の森林は森林管理協議会(FSC)の認証林であり、取り扱うすべての木材はPEFC(PEFC森林認証プログラム)管理ソースによる管理を行う供給元から調達したものであり、国立公園内で伐採された木材は絶対に取り扱わないと主張している。⁶³ 現実には、自社のFSC認証林の木材は2%以下であり、残りは1,000社以上の異なる伐採会社から調達している。その多くは違法伐採の疑いで訴追されるか現在捜査中となっている。⁶⁴ シュバイクホファー社が調達木材の合法性を「保証する」と主張するPEFC管理ソースは、そのようなものではまったくない。ルーマニアの森林セクターでは文書の不正が広く横行しているにも関わらず、PEFC-CoC認証(加工・流通過程の管理認証)は単に合法性を「示唆する」文書の存在を求めのみみゆえである⁶⁵ (訳者注:事実ベースの確認、いわゆる実際のトレーサビリティの確認はしていない)。

EIAの2015年報告に記したシュバイクホファー社による違法木材受領の数々の事例が示すのは、ルーマニアの高リスクの森林セクターにおけるPEFC-CoC認証の書類ベースに依拠した脆弱性である。シュバイクホファー社は国立公園内の木材を拒否しても少なくとも過去3年間主張してきたが、少なくとも2015年初頭まで国立公園で伐採された木材をそうと知りながら受け入れていたことがEIAの調査で分かっている。⁶⁶ 国立公園で伐採された違法木材を載せたトラックを追跡したところシュバイクホファー社の製材所にたどりつき、そこで警備員に殴打され催涙スプレーを浴びせられたルーマニア人の環境活動家に対し、同社の代表がそれを認めている。⁶⁷

EIAの覆面調査員はシュバイクホファー社のルーマニア担当購買責任者と2度にわたり会合を持った。調査員はシュバイクホファー社の面会者に、毎年一定量を伐採できる契約を地元のコミュニティと結んでいるが、その2倍の量を売りたいと提案した。2回の会合のいずれにおいてもシュバイクホファー社の面会者は伐採許可量以上の木材を買うと明言した。これは違法調達にあたる。さらに、契約で合意した量を超えて納入された木材1 m³につきおよそ8ユーロに相当するボーナスを支払うという会社の規程も説

明された。EIAはこれらの会合の音声・映像記録を2015年4月に公表した。⁶⁸

2015年5月、EIAや他のメディアの報告を受けて、ルーマニア環境・水・森林省はシュバイクホファー社のセベシュとラダウツィの製材所の立ち入り調査を命じた。調査は全国の多数の地域のサプライヤーの調査と連携して行われた。⁶⁹ セベシュ製材所の調査では1万件以上の契約書の中から数百件を取り上げて、セベシュへの丸太の出荷に関する運搬書類(aviz)と伐採区許可書(APV)の比較・照合が行われた。⁷⁰ その結果、2014年1月から2015年4月までの間に、マラムレシュ郡というわずかな一つの郡の27のサプライヤーから165,000 m³以上の木材がシュバイクホファー社のセベシュ製材所に納入されていたことが判明した。⁷¹ 加えて、調査報告書は数多くの法令違反が見つかったと記している。「伐採地由来の証明のないまま購入された丸太を合法だと見せかけるために」地元の森林当局職員、サプライヤーの企業、そして「シュバイクホファー社セベシュの現地代表」からなる、「違法ネットワーク」と検査官が呼ぶものが作られていたこともその一例である。⁷²

シュバイクホファー社の最高経営責任者ゲラルド・シュバイクホファー氏(Gerald Schweighofer)は違法に調達した木材は決して受け取らないと主張している。⁷³ ところが、シュバイクホファー社とサプライヤーの契約書には、適切な合法証明書がない木材をシュバイクホファー社は受け取るが、1 m³あたり35ルーマニア・レイの手数料を科すと記載されている。⁷⁴ そうした木材を当局に引き渡すか、その合法性を証明するまでは、この契約システムは一方でサプライヤーを罰しながら、他方で安い違法木材を買い手に売り続けることで追加利益を得るというシステムである。この違法木材の供給に対する「違法木材手数料」は、規定量以上の木材に1 m³あたり8ユーロのボーナスを支払うというEIA調査員に提案された仕組みと見合うものだ。合法性を証明する書類のない違法木材を供給する罰則としてサプライヤーが支払う手数料は、契約で合意した量を超えて供給した場合にシュバイクホファー社から支払われるボーナスによって相殺することができるからだ。

シュバイクホファー社は2002年からルーマニアで事業を展開している。その年の初め、シュバイクホファー社はルーマニア政府から複数の10年契約を獲得した。これによりシュバイクホファー社は通常の競争入札を免除されながら、公有林で伐採されるオウ

2014年1月から2015年4月までの間に、マラムレシュ郡というわずかな一つの郡の27のサプライヤーから165,000 m³以上の木材がシュバイクホファー社のセベシュ製材所に納入されていたことが判明した。

シュウトウヒの丸太のおよそ半分の確保が保証された。⁷⁵ この10年でシュバイクホファー社はルーマニア最大の林産企業に成長した。⁷⁶ 現在、ルーマニアの5か所に製材所と加工工場をもち、製材、ペレットおよびブリケット、構造用集成材、ブロックボードを生産している(p.8の図を参照)。⁷⁷ シュバイクホファー社はルーマニアの製材所で使用される木材の約40%を他国から輸入しており、その大半は隣国ウクライナからである。⁷⁸

シュバイクホファー社はほぼすべての木材を他社から調達しているが、これらのサプライヤーとは大抵の場合、財務上で密接な関係をもっている。⁷⁹ 多くの場合、シュバイクホファー社は一定量の木材の納入をサプライヤーに義務付ける契約を結び、サプライヤーに前金を渡している。サプライヤーが目標量を納入できない場合は罰金を科せられる。⁸⁰ 義務付けられた供給量がサプライヤーの森林地域で許可された合法的な伐採量を上回る事例の一覧表が、裁判所に提出された資料に記載されている。⁸¹



EIA

シュバイクホファー社の木材サプライチェーンの違法性について

供給源での違法行為

許可地域での違法伐採



衛生伐採許可の濫用



皆伐



違法な返還



禁止地域での違法伐採



国立公園内の伐採



コンセッションコン外での伐採



運搬中の違法行為

丸太のハンマー一印の欠落または間違い



供給源書類の欠落または偽造



供給源書類の複数回の使用



製材所での違法行為

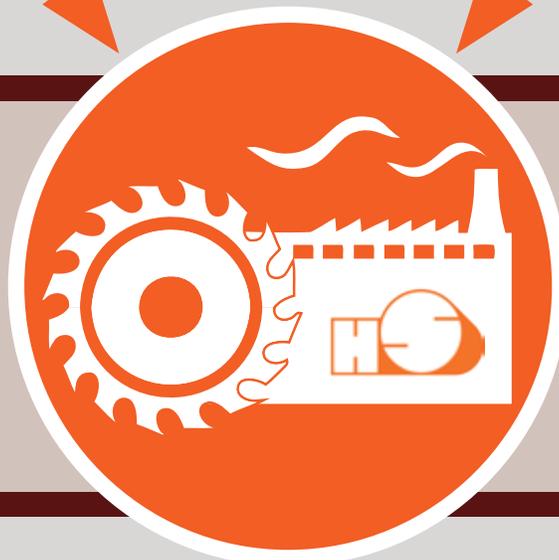
余分の木材納入に対する奨励金



違法木材による融資の返済



違法木材の受領



日本



2.2 EIAレポート(2015年)発表以降の展開

EIAは、2015年4月、シュバイクホファー社の調達担当マネージャーらが、違法木材を購入し、そのためのインセンティブを提供するような行為をしていたことを明らかにした覆面調査の映像を公開した。さらに同年10月にはシュバイクホファー社の過去10年のルーマニアでの違法木材購入の詳細について記述した40ページの報告書を発表した。この記者会見は、世界自然保護基金(WWF)、グリーンピース、ルーマニアのNGOエージェンツグリーン、そしてルーマニア最大の森林保有者協会が協力してウィーンとブダペストで開催したものである。EIAの発表はいずれも、同社が及ぼすルーマニアの森林セクターへの悪影響についてルーマニアの報道機関と市民団体が数年に及んで明らかにしてきた記事や報告に続くものである。この一連の発表に対してルーマニア政府は厳重なる措置を取る姿勢を見せており、ヨーロッパ市民団体もしっかりとモニタリングをしている中、シュバイクホファー社は、弁明に苦慮している。

2015年6月に、ルーマニア政府は、シュバイクホファー社のセベシュにある工場に対し、5週間にわたる調査を行なった結果、数多くの不正行為が見つかった。同政府は、同社の木材の中に違法伐採に由来するものがある疑いがあり、事件は検察に委ねられると発表した。当時のルーマニアの環境相 Gratiela Gavrilescu氏は調査の結果、シュバイクホファー社は、「多くの場合」違法木材を50以上の実態のないペーパーカンパニーから購入した形になっており、多額の税を免れているとインタビューで明らかにしている。⁸² 2013年3月発行のオーストリアの週刊誌profilによれば、Gavrilescu環境相はこの調査結果を受け、本件が環境省から組織犯罪・テロ案件に特化した検察の特別部門に所管を移されたことを説明している。⁸³ そして、現ルーマニア環境相のCristiana Pasca Palmer氏は、2016年3月に、シュバイクホファー社と同社のサプライヤーに対する調査が進行中であると認めている。⁸⁴

2015年10月、WWFオーストリアは、オーストリア森林庁に対し、シュバイクホファー社がEU木材法に違反した疑いがあるとして告訴した。⁸⁵ さらにFSC(森林管理協議会)は、2015年11月「ルーマニアで違法伐採された木材の購入と取引」があったという申し立てに基づき、シュバイクホファー社の調査を開始する旨を発表し、2016年4月に正式に調査が開始された。⁸⁶

シュバイクホファー社は、ウィーンとブダペストの大手広告代理店を雇ってこの展開に対応し、シュバイクホファー社に対するすべての告訴・要求が誤りであることを証明する報告書と一連のプレスリリースを発表した。⁸⁷ 同社によれば、今回の件において同社は「世界規模の不当な名誉毀損運動の被害者」であり、⁸⁸ 同社の製材所は厳しく管理されており、違法木材を受け取ったことは一度もないと主張している。そして同社は、EIAのビデオは真実を歪めた編集が多く施されていると主張している。

これらのシュバイクホファー社の否認表明は、ルーマニアそして海外のNGOやメディアの多くの調査報告に反するものとなる。ドイツとオーストリアの有名なニュース雑誌であるDer Spiegelとprofilは、EIAの全映像データにアクセスした。その結果、いずれもシュバイクホファー社の主張を認めていない。Der Spiegelは、「状況は、元々明らかであった」と書き、⁸⁹ profilは、「無編集のもの」と編集後のものに差異は見られない」と書いている。⁹⁰ Der Spiegelによれば、シュバイクホファー社側が、Der Spiegelに紛らわしい情報を送り、自社の行為を隠蔽しようとしたという。同社の誠実さの証拠とされるものは、同社のすべての木材には法的文書が付随していなければならないと説明するEIAの覆面調査員に送った電子メールを、同社からDer Spiegelあてに転送したものである。⁹¹ Der Spiegelの報告によれば、同社がこの転送メールを送る前日には、すでにEIAの覆面調査についてとその調査結果の発表が行なわれることを知らされていたはずであった。profilは2016年3月に、これらの非難に対してシュバイクホファー社がどう反応したかをまとめている。同誌の記者は、他の海外のジャーナリストとともに、シュバイクホファー社のCEOであるGerald Schweighofer氏のプライベートホテルで行われたミーティングに招待を受けており、そのミーティングは、「彼の会社に対する、証拠のない誤解を払しょくし、信用を回復する」ために開催されたものであった。しかし同誌によれば、「実際には、彼は『それらは全部真実ではない』という以外にはほとんど何も話していない」とのことである。⁹²

シュバイクホファー社は、同社に異議を唱えているすべての団体、特にEIA、WWF、そしてルーマニアNGOエージェンツグリーンについては「くだらない、取るに足らない」として、各団体の評判を落とそうとした。⁹³ 一方で同社はルーマニアでの活動を隠蔽するための措置をとっている。報道によれば、同社は、10年間ルーマニアの調達部門でチーフマネージャーを務め、ルーマニア国内でのシュバイクホファー社の成功に貢献したとされる人物であったKarl Schmidを、⁹⁴ EIAの覆面調査員からの違法木材のオファーに対して「問題ない」と答えた張本人ということと解雇していた。⁹⁵ さらに同社は、違法木材の提供に対し「罰則」を規定していた文言を、契約書から削除修正した。同社は、少なくとも2013年以降、国立公園からの木材調達を受け入れないと主張していたにもかかわらず調達を継続し、2015年初頭になって、現在は国立公園から木材調達をしないために実際的な努力をしていると主張した。⁹⁶ 同社は、木材を輸送するトラックの追跡が可能な新しいGPSシステムにより、ルーマニアで広く横行している違法行為である一度の通行許可で複数の輸送を防止できるようになった⁹⁷として、誇大にアピールしている。

2016年1月、シュバイクホファー社は、「すべての納入業者が、厳しい監査を受ける」ことが求められ、かつすべての同社製品に、認証と非認証の原料割合の特定はされない「FSC Mix」というラベルを貼付して販売が認められる、新しいFSCのCoC認証を受けた

と発表した。⁹⁸ 独立した第三者認定機関である国際認定サービス(ASI)は、オーストリアの証明機関であるクオリティ・オーストリアが、シュバイクホファー社にFSC認証を付与する際に、すべての手順に正しく従っておらず、特に、ステークホルダーへのアクトリチに問題があったとして調査を開始した。⁹⁹

シュバイクホファー社の違法行為に関する新しい証拠が次々に表面化していった。2015年11月には、ルーマニアのドキュメンタリー番組In Premieraが、45分間の長い番組を放送し、同社につながる木材サプライチェーンが3つの段階において明らかに違法であることを示した。¹⁰⁰ 組織化された犯罪ネットワークが、賄賂を受け取る政府官僚と怪しげな営利団体と連携し、違法伐採を合法化する偽造書類を用いて違法木材を合法木材にロンダリングしていたのである。この偽造書類は、シュバイクホファー社の製材所において、それ以上の質問を受けることなく受領されていた。森林管理官、地元警察、シュバイクホファー社の社員のネットワークを通して、陰で賄賂を渡していた人物が複数存在する。そのため、もし賄賂について漏らす者があれば、自身だけでなく所属する企業も脅迫されることになるのである。¹⁰¹

公表された映像が撮影された過程において、主要なジャーナリストは、ルーマニアで最も美しいといわれる国立公園の一つに近い森林の管理官と製材所の所有者から危うく暴力を受けるところであった。ジャーナリストがこの件について地域の警察に通報したところ、この地域では森林の違法伐採を辞めさせる法的取締力はないと言われたと述べている。その警察職員によれば、「基本的に、このコミュニティ全体が一丸となって我々に反対している。森林管理官はこの限られた地域の王のような存在であり、人々が我々に協力するために彼らを告発することはない。」という。撮影中にインタビューを受けたトラックの運転手は、5年以上シュバイクホファー社の製材所のドライバーをしているが、彼の運ぶ木材の80パーセント程度が違法木材であると告白している。さらにこの映像では、写真やSNSのやりとりの記録から、森林管理官と同社のキーパーソンとの個人的な関係を暴いている。¹⁰²

シュバイクホファー社の役員たちは、もしルーマニア政府が同社の行為に何らかの制裁を加えるなら、同社の経営基盤を別の国へ移転すると長く脅迫していた。最近の公式声明では、シュバイクホファー社は、同社の調達基盤をルーマニア国外に移し続けているため、「ルーマニア国内に4つ目の工場を建設する予定はない」と強調している。¹⁰³ また同国が進めており、同社の貪欲なビジネス手法を脅かす可能性のある林業政策の改革を緩めなければ、法的措置を取るとルーマニア政府を脅してきた。¹⁰⁴ シュバイクホファー社自身が、木材調達のやり方を変えるための現実的で重要なステップを踏まない限り、この問題は大きくなり続けるだろう。

Ecostorm

ルーマニアの皆伐された森林



2.3 シュバイクホファー社によるウクライナからの高リスク輸入木材

シュバイクホファー社によるルーマニアへの木材輸入は近年著しく増えており、2015年には全体の80%が、ウクライナからのオウシュウトウヒとオウシュウアカマツとなっている。¹⁰⁵ 同社によるウクライナからの調達方法は、かつてオーストリアで事業を立ち上げ、さらに2002年にルーマニアで立ち上げた時のモデルをそのまま使っている。同社は、ルーマニアにおいて困難に直面したため、ウクライナへと調達基盤をシフトさせたが、同国はルーマニアより贈賄が横行し、同様に違法伐採レベルが高く、近年では全土において紛争が起きている。

2010年から2013年までの4年以上にわたり、シュバイクホファー社による針葉樹材—主にオウシュウトウヒ材—のウクライナからの輸入は比較的安定しており、月間約40,000~50,000m³となっている。¹⁰⁶ 2015年11月、ウクライナは、オウシュウアカマツを除くすべての

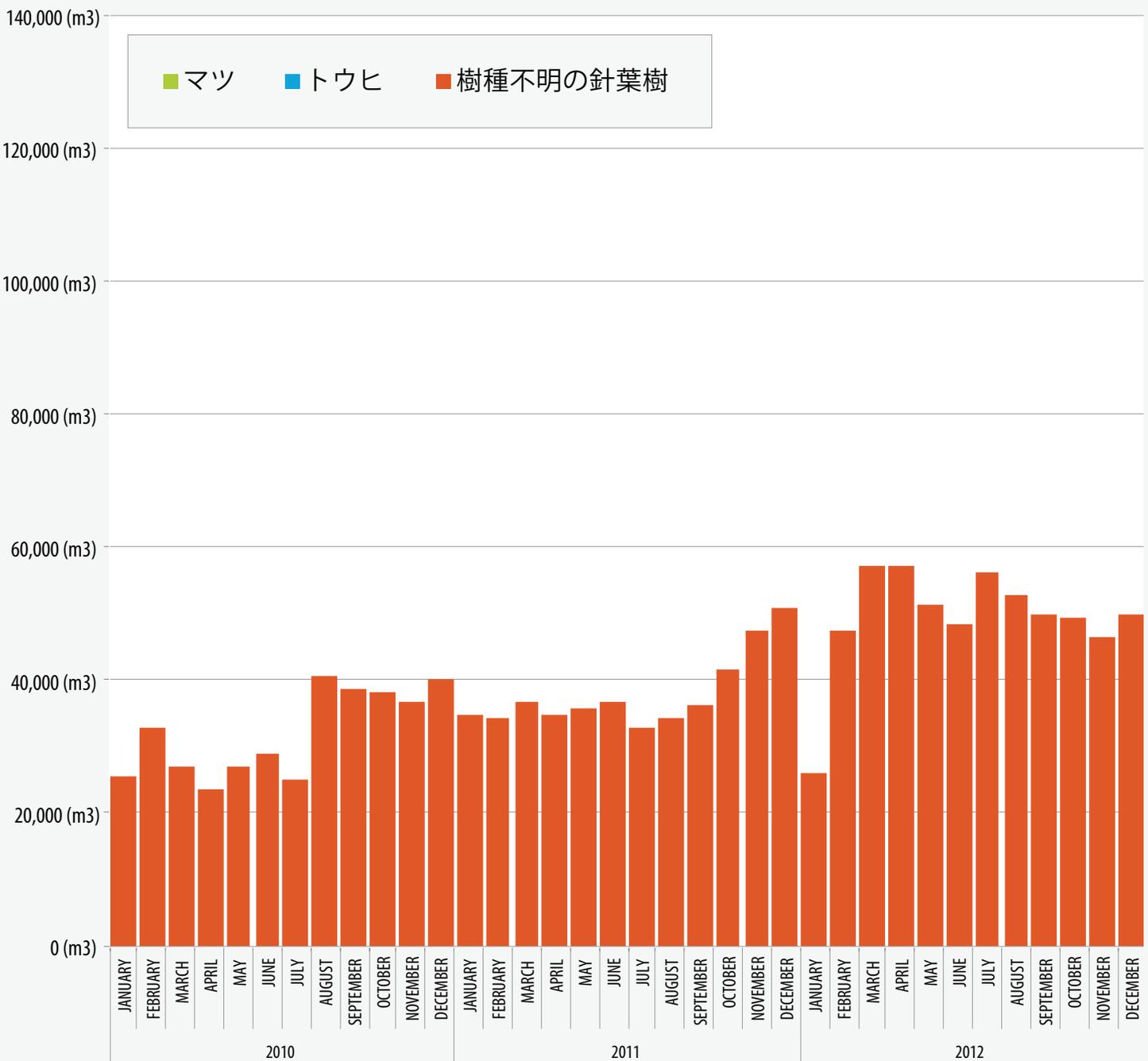
丸太輸出を禁止するとし、2017年から段階的に施行されることになった。¹⁰⁷ この禁止を見越してか、2015年2月にシュバイクホファー社は、日本向け住宅建設用のアカマツ集成材を製造している同社のラダツツイ製材所で、新しい集成材製品の製造を開始することを発表した。¹⁰⁸ その際日本の製材会社である株式会社ラムセル（銘建工業株式会社）と日本国内での販売の独占契約を結んだと発表している。

ルーマニアの輸入データによると、シュバイクホファー社によるウクライナからのオウシュウアカマツの輸入は、2015年5月から始まり、少なくとも2016年2月の終わりまでは、月平均60,000 m³前後と算出されている（10ページ、表1参照）。他方、シュバイクホファー社の報告するウクライナからのオウシュウトウヒの輸入は、2015年11月中旬ごろには0になったとされている。ルーマニアでの針葉樹の木材生産は、ほぼオウシュウトウヒがメインとなっていることから、¹⁰⁹ 同社の日本向け

の集成材製品の材料のほとんどは、ウクライナからのオウシュウアカマツであると考えられる。

2014年の「マイダン」革命—ロシアのクリミア編入に対し、国の極東地域で続く反乱—以来、ウクライナは、世界から注目を集める存在となっているが、継続する不安定な国内情勢は、国内のオウシュウトウヒの主要産地であり、北西部におけるオウシュウアカマツの植生地域でもあるルーマニアとの国境付近にあるウクライナ西部のカルパティア山脈の地域にさえも影響を及ぼしていた。¹¹⁰ トランスペアレンシー・インターナショナルのランキングにおいて、ウクライナは、2015年の汚職腐敗指数で167か国中130位に位置し、全ヨーロッパで最低のスコアとなっている。¹¹¹ シュバイクホファー社に FSCのCoC「Mix」認証が与えられる際に使われたFSCによるウクライナの2013年コントロールウッドのリスクアセスメントのドラフトを作成した作業部会は、多数の森林分野関係者に対しアンケート調査を行なっている。この報告によれば、アンケート回答者全員が、

表1: シュバイクホファー社によるウクライナからルーマニアへの木材輸入 (2010年~2015年)



ウクライナの林業界には汚職が蔓延しており、回答の80%において「とても高い」割合で汚職が行なわれていると述べていた。¹¹²

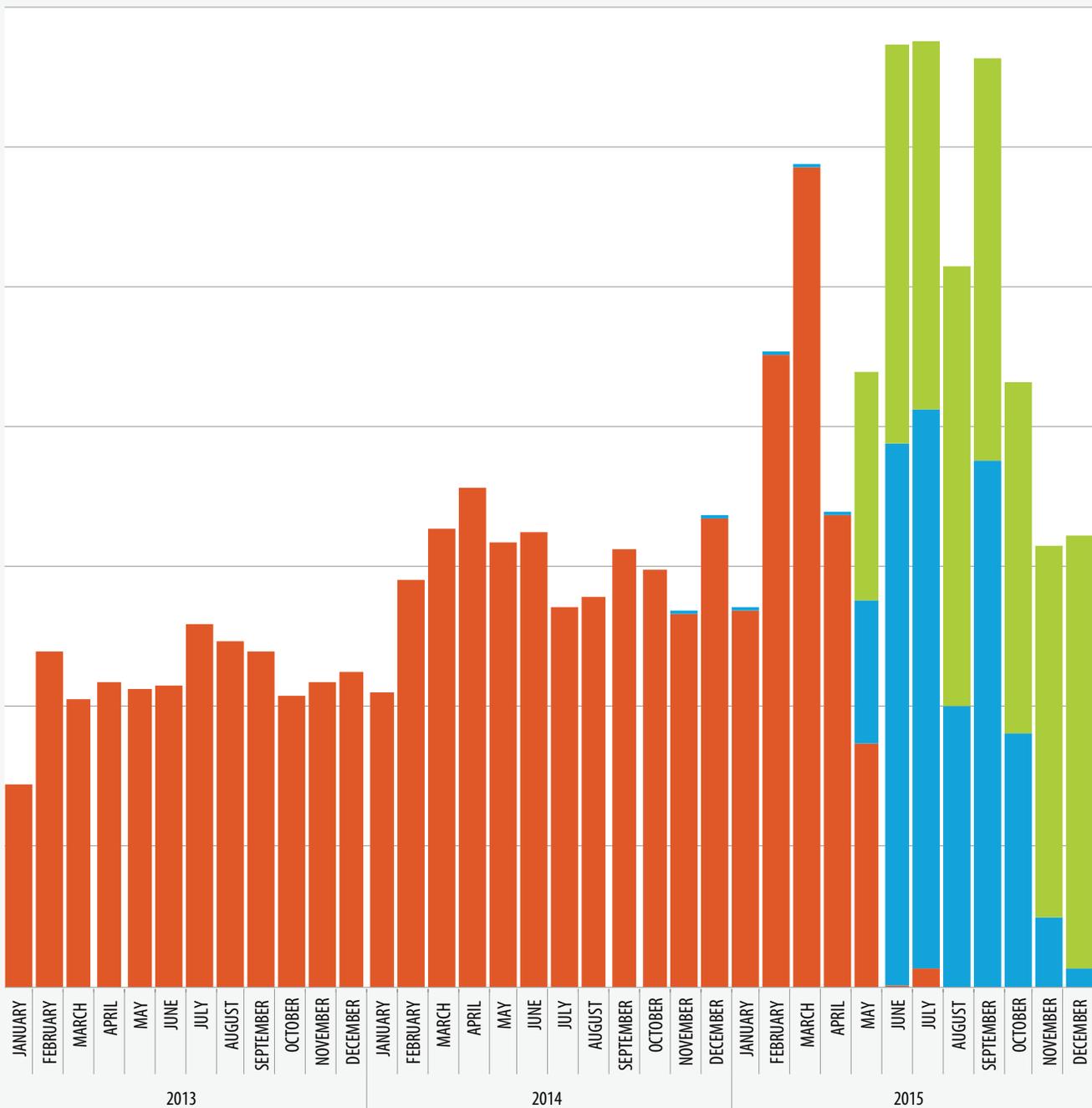
このFSCIによる報告書では、ウクライナにおける違法伐採について説明した12以上の情報ソースを参照している。報告では、違法伐採に関するすべてのアセスメントカテゴリーにおいて、リスクは存在するが、はっきり限定できないため「特定できない」と表記されている。¹¹³ 2012年の調査では、ウクライナの森林セクターにおける違法行為として、ダメージを受けたり病気になったりしている木々を取り除く衛生伐採の許可を利用した商業伐採、制限以上の伐採、偽造書類を用いた伐採など多くの違法行為がリストアップされている。¹¹⁴ この調査では、適切に法を行使するための構造的な強化の重要性を強調しており、森林ガバナンスと森林管理はともに、同じ組織に委ねられるべきとしている。つまり国の天然資源機関の各部署にである。¹¹⁵ 報道に

よると、森林管理のための国による支出は、2013年に4億3千8百万フリブナだったものが2016年には6千6百万フリブナ(250万米ドル相当)まで急激に落ちていることから、ウクライナの森林ガバナンスは、深刻な組織的問題を抱えている可能性を示唆している。¹¹⁶

恐らく最も懸念すべきは、最新のメディア報道において、1986年に世界最大の核災害が起きたチェルノブイリ周辺の伐採禁止地域において放射能を浴びたアカマツ材にも違法伐採が及んでいることであると強調していた点である。¹¹⁷ この違法伐採されたアカマツ材は、市場でロンダリングされ、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア等の国外へ輸出されたと報告されている。¹¹⁸ FSCIも同様に、被爆木材が市場、特に商社を通して市場に出回ることを「特定できない」リスクとして記している。¹¹⁹

シュバイクホファー社がウクライナから調達している木材樹種(当初オウシュウトウヒであったが、現在はオ

ウシュウアカマツ)は、西ヨーロッパ、北アメリカのいわゆる低リスクの国々の多くで大量に出回っており、そしてこれは日本国内にも当てはまることである。ウクライナでの汚職度合いが非常に高いこと、違法伐採の報告件数が非常に多いことを考慮すると、シュバイクホファー社は、ウクライナからルーマニアへの輸入木材の合法性を担保するために、厳しいデューデリジェンスを行なう責任がある。しかしながら同社は、ウクライナからの調達をカバーするデューデリジェンスの基準を公表しておらず、実際にデューデリジェンスをいかに実行しているかについての詳細も発表していない。シュバイクホファー社から購入している日本企業は、同社の書類の正当性について、特別な注意を払って確認する必要がある。ルーマニアにおけるシュバイクホファー社の歴史を考えると、日本企業は同社の言葉、あるいは簡易なCoC認証だけを信頼することはできないであろう。





第3章 シュバイクホファー社と日本市場とのつながり

ポーランド近郊サチェレのシュバイクホファー社の鉄道基地

少なくともここ5年間、日本の企業はシュバイクホファー社の主要な取引先であり、¹²⁰ 同社の日本への輸出は、2010年以降、比較的安定している(13ページ 表3参照)。同社の日本への輸出木材は、長い間単純なホワイトウッドの製材品のみであったが、2013年の終わりから集成材製品が増え、2015年までに、日本向け輸出の42%が集成材製品となった。¹²¹

シュバイクホファー社の日本側の顧客もまた一貫している。大阪に本社を置く大手商社の阪和興業社は、2010年以降シュバイクホファー社の日本における最大取引先である。¹²² 2015年、同社の阪和興業への販売は、オーストリアからの輸出総額の35%にあたり、そのうちの76%は、製材品(ラミナ)である。シュバイクホファー社と取引を行なっている阪和興業以外の日本企業は、日本で最大手の商社が連なっている。住友林業、ラムセル(銘建工業)、伊藤忠建材、双日建材、ジャパン建材である。¹²³ シュバイクホファー社と取引を行なっている日本企業のほぼすべてが、製材品(ラミナ)と集成材を住宅関連会社に販売する事業を展開している。¹²⁴ この木材は、日本全土において木造建築に広く使われることになる。¹²⁵

表2: シュバイクホファー・ルーマニア社の日本顧客売上高上位10社一覧

順位	会社名	製材	集成材
1.	阪和興業	¥5.2 B	¥1.7 B
2.	住友林業	¥1.8 B	¥1.3 B
3.	銘建工業		¥2.6 B
4.	伊藤忠建材	¥1.3 B	¥427 M
5.	双日建材	¥637 M	¥1.1 B
6.	ジャパン建材	¥881 M	¥472 M
7.	丸紅建材	¥284 M	¥476 M
8.	ナイス	¥136 M	¥280 M
9.	篠原商店	¥33 M	¥216 M
10.	吉銘		¥243 M



第4章 日本は今すぐ違法伐採対策を強化すべき

ドモグレド国立公園での皆伐

Agent Green

4.1 日本の不十分な対策の現状

現在の日本の法律では、海外からの調達に際し、ほとんどの日本企業にとって違法木材の調達を回避する取組みが必須ではない。¹²⁶ 米国、欧州、オーストラリア、カナダを含む、日本以外の先進国市場およびG7加盟国のすべてにおいては、違法木材の輸入が禁止されている。¹²⁷ 現在これらの国のほとんどでは、海外から木材を調達する際、デューデリジェンスを行うことが義務づけられている。

G8の全加盟国が違法木材の輸入を中止することを約束した2005年のグレンイーグルズサミットにおいて、日本は定められた義務に対して最初に反応した国である。¹²⁸ 2006年、日本は木材および木質製品の合法性および持続可能性を確認するためのガイドラインに基づき、合法かつ望ましくは持続可能な木製品のみを政府調達の要件とするため、グリーン購入に関する基本法を改定した。¹²⁹ この法律は企業や地方自治体へ合法性および持続可能性が担保された木製品の購入を促した。しかしながら、これらの施策は、違法木材の輸入を止めるには十分なものではなかった。

日本のグリーン購入法は、日本の木製品輸入の約5%を対象としているに過ぎない¹³⁰ 政府によるグリーン購入法に関する独自調査では、調査に回答した政府機関の4分の1は、木製品の合法性を正式に確認していないと答えた。¹³¹ さらに同法には、コンプライアンスを担保するための罰則がない上、企業が政府へ納入する木材が実際に合法かどうかを確認するためのデューデリジェンスの実施を必要としない。

ルーマニアは小さな国であるにも関わらず、2015年だけでもシュバイクホファー社1社が日本へ輸出した構造用木材は、200億円に相当する。¹³² サラワク、インドネシア、ロシア、中国などの違法伐採率が高い国や地域は、数千億円に相当する合板、家具、床材、構造用木材を、毎年日本へと輸出している。¹³³ ルーマニアの事例は、日本にとっては比較的小規模な貿易の流れかもしれないが、世界の国々において影響を受けやすい生態系へ甚大な悪影響を与えている。

欧州、米国、オーストラリアなど主要な木材消費国は、企業に対し市場で取り扱う木材製品の合法性を担保するためのデューデリジェンスを行うことを義務付けている。日本は他の主要木材消費国で定められているような高水準の法の制定を進める努力がなされていない。日本は、違法な木材貿易を効果的な禁止し、違法伐採リスクのレベルに応じたデューデリジェンス実施義務を企業へ要求すべきであり、従わない企業には罰則を科す必要がある。

厳しく義務的な法律を制定することは、TPP(環太平洋連携協定)の環境チャプターにおける、違法伐採および貿易との闘いと防止という近年の日本による発言を実現するために役立つであろう。

4.2 十分なデューデリジェンスの必要性

シュバイクホファーの場合、シンプルな紙ベースの書類システム以上のデューデリジェンスが必要なことがわかる。2016年4月に公表された最近の報告書においてシュバイクホファー社が雇用したコンサルタントは、ルーマニアの工場の新しい管理システムについて説明している。¹³⁴ この報告書では、過去十年間にわたるシュバイクホファー社のサプライチェーンにおける違法木材に由来した利益、および同社に対して現在進行中であるルーマニア政府やFSCによる調査に関連した公共領域における証拠を考慮せずに、書類を基本にした管理システムにのみ集中している。¹³⁵

新しい監査報告では、コンサルタントはシュバイクホファー社のデューデリジェンスシステムは、EUTR(EU木材法)の基準に従ったものだとして主張している。¹³⁶ しかしながらEUTRのリスク評価では、「違法伐採の横行」を考慮することが特記されている。¹³⁷ EIAの2015年の報告では、ルーマニア政府が同社を調査した際と同様に、シュバイクホファー社に関連した数多くの違法行為に重点が置かれた。¹³⁸

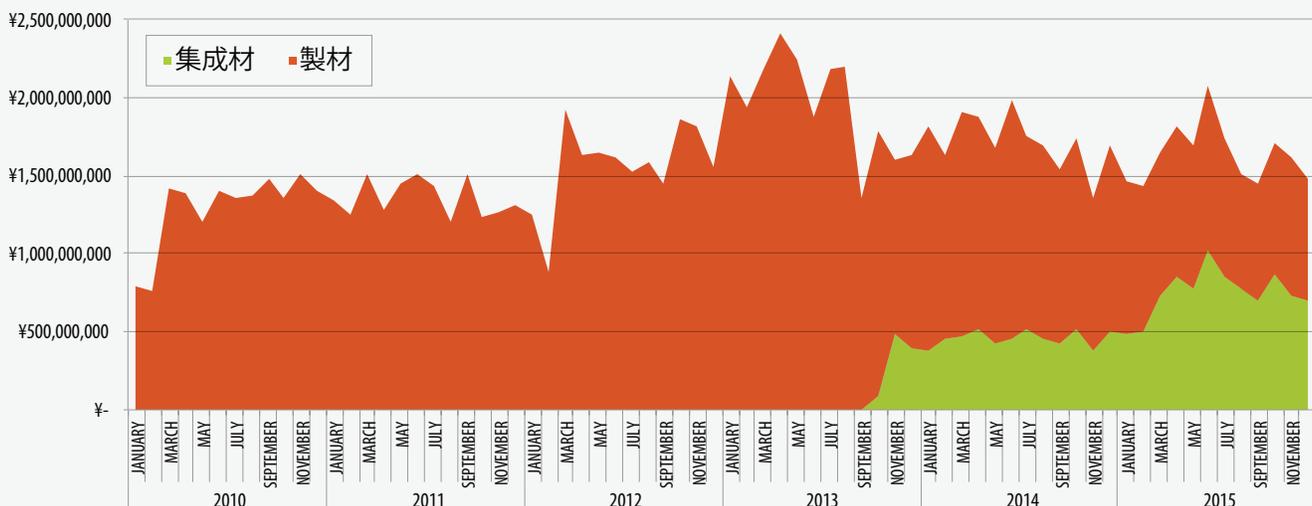
シュバイクホファー社のデューデリジェンスシステムに基づいたリスク評価は、同社のFSCコントロールウ

ド(管理木材)認証を基づいている。コンサルタントの報告では、「FSCの森林管理認証、あるいはコントロールウッド認証に準拠した組織はリスクの低い供給者とみなされる」と書かれている。¹³⁹ FSCでは明確に、FSCの認証のみでは法に従っていることの証明にはならず、「複数の国内所轄官庁は、FSC認証をリスク軽減の十分な証拠としては受け入れていない。」としている。¹⁴⁰

コンサルタントの報告書によるとシュバイクホファー社はFSCのコントロールウッド認証をもったすべてのサプライヤーへそれ以上の審査を行わないとしている。¹⁴¹ それ以外のサプライヤーは合法性を示す書類を提出しなければならぬが、¹⁴² - 国内では偽造書類の問題が広く知られている。¹⁴³ EIAによる2015年の報告書では、代表取締役のGerald Schweighoferがオーストラリア新聞のインタビューにおいて、サプライヤーの書類の合法性に関し「偽物であろうが、なかるうが、証明はできない」と話した言葉を引用している¹⁴⁴

シュバイクホファー社の広範囲にわたる木材調達の構造は、ルーマニアのようなリスクの高い環境における然るべきデューデリジェンスを困難にしている。同社自体は、比較的小規模な森林しか所有しておらず、ルーマニアでの調達のわずか2%が自社林由来である。¹⁴⁵ その代わりとして同社は、3か所の製材所の莫大なニーズを補うため、ルーマニア全域にある1000以上の異なるサプライヤーに頼っており、2014年にはルーマニアで伐採された針葉樹のほぼ3分の1がこのために消費されている。¹⁴⁶ サプライヤーの多くは他の企業から木材を購入する中間業者および商社だ。少なくともシュバイクホファー社が使用するルーマニア産木材の3分の1は、木材の伐採地に関する書類が必要とされないdepot(木材市場)から輸送されている。¹⁴⁷ ルーマニアのようなリスクの高い国におけるデューデリジェンスは、サプライヤーへの信頼や書類以上のものが必要である。残念なことに、このような精密な調査は、ルーマニアでの木材調達におけるシュバイクホファー社の現在の管理システムのレベルを越えたものである。

表3: シュバイクホファー社のルーマニアから日本への輸出(2010年~2015年)





結論

ルーマニアにおけるシュバイクホファー社の行いは、ルーマニアでの違法伐採と森林管理セクターに、重大な影響を及ぼしている。証拠は明確である。近年のルーマニア政府の調査では、同社のわずか1か所の製材所から10万m³を超える違法木材が確認されている。さらにシュバイクホファー社の雇用者が違法伐採目的の犯罪組織グループに関与している証拠も見つかっている。¹⁴⁸ 政府の調査は現在も進行中である。¹⁴⁹

EIAおよびその他の非政府組織、ルーマニアや海外メディアが、数多くの違法伐採の事例を何度も取り上げ、最終的にはシュバイクホファー社の製材所へと行きついている。シュバイクホファー社の調達担当のトップが、違法な木材と知りながら受け入れている場面がEIAの隠しカメラに撮影された。¹⁵⁰ EIAと話した同社幹部(10年以上にわたり調達担当としてシュバイクホファー社のルーマニアでの調達を立ち上げ、管理責任に携わったオーストリア人)は、現在会社から解雇されている。¹⁵¹

ルーマニアは国民と政府が共産主義時代とポスト共産主義者の過去による汚職腐敗から離れるために苦労している過渡期の国である。2015年に行われた路上での抗議行動は、その年の後半に新たな改定された森林法典を押し通すのに役立った。¹⁵² この新法の施行は現在進行中で、新たに創設され潤沢な資金を有する森林保護機関、地域と協働した仕組みをもつより充実した電子式木材追跡システムなど改善がみられる。¹⁵³

しかし、森林セクターへ本当の変革と信頼性をもたらすには、より大きな努力に加え、多くのことを為す必要がある。国内の森林のあちこちを支配する組織化されたマフィアへ資金が自由に流れ続けるのであれば、これらの変化は期待できない。ルーマニアの木材の購入者である日本、欧州、米国、中東が、ルーマニア企業の違法木材調達を止めるようにプレッシャーをかける必要がある。シュバイクホファー社の取引先は、同社が盗伐材を取り扱わないことを完全に明確な方法で顧客と公に明らかにできるまで、同社との契約を解除するべきである。国内に広がる汚職腐敗に染まった木材マフィアへ資金が流れなくなった時、ルーマニアは森林セクターを管理できるようになるであろう。

ルーマニアの森林で起きている森林影響と同じことが世界中で起きているが、その規模は遥かに大きい。日本は森林に依存している人々、脆弱な生態系、持続可能な林産業の将来へ破壊的な影響を与える違法伐採が行われているサラワク、インドネシア、ロシアなどの国や地域から毎年数百万m³の木材を調達している。¹⁵⁴

他の先進国はすべて、自国の企業が木材を調達する生産国の法律へ従うよう行動を起こしている。欧州、米国、オーストラリア、カナダでは、違法木材由来の木製品の輸入を禁止する法律が制定されている。これらの国のほとんどでは、違法木材の調達を避けるために、デューデリジェンスを行うことを必須としている。

国内の森林のあちこちを支配する組織化されたマフィアへ資金が自由に流れ続けるのであれば、これらの変化は期待できない。

日本が世界の動きに合わせる時が来た。日本は海外から木製品を輸入する企業に、デューデリジェンスを義務づける法律を制定する必要がある。より多くの国とより多くの会社がデューデリジェンスを行うことにより、木製品のサプライチェーンを再構築する力を拡大させる。日本の協力なしでは、新しいグローバルなマーケットを再編するためのグローバルスタンダードが、その十分な可能性と共に成し遂げられない危険性がある。日本政府は、これらの努力において先進国と協力し、ルーマニアおよび世界における違法伐採の共犯者にならないように、日本の顧客を守る責任がある。

提言

日本政府がすべきこと:

1. 十分なデューデリジェンスの実施と効果的な罰則を伴う違法伐採木材の輸入禁止に関する法律を制定する

シュバイクホファー社から木材を調達している日本企業がすべきこと:

1. シュバイクホファー社が高い透明性を確保した上で、明確に違法伐採に由来する木材は今後一切取扱わないことを証明できるまで彼らとの契約をすべて解除する
2. 違法伐採に由来する木材製品の調達を避けるための厳格なデューデリジェンスの実施と法遵守を確実にする

参考文献

- EIA, 2015. *Stealing the Last Forest: Austria's largest timber company, land rights, and corruption in Romania*.
- Ibid.
- RISE Project. Schweighofer under control: Timber Trafficking and Green Certificates Fraud. (August 21, 2015). Retrieved from <http://www.riseproject.ro/control-la-schweighofer-traffic-de-lemn-si-fraude-cu-certificate-verzi/>.
- Romanian customs data, 2015.
- Holzindustrie Schweighofer. About Us. Retrieved from <https://www.schweighofer.at/en/the-company/about-us.html>
- Romanian customs data, 2015.
- Ibid.
- Ibid.
- Ibid.
- EIA, 2015. *Stealing the Last Forest: Austria's largest timber company, land rights, and corruption in Romania*.
- Emergency Ordinance 32/2015 on the establishment of forest guards. (2015). 政府官報 No. 474/30.06.2015)には以下のように記載されている。ルーマニア国家森林インベントリーによる調査は2008～2014年の間、毎年880万m³もの木材が違法に伐採され、その量はその間に伐採された総量の49%に相当する。なおルーマニア国家統計局 (INS) の記録では、2008～2014年の間で総量12,500万m³の木材が伐採されている。
- Holzindustrie Schweighofer. About Us. Retrieved from <https://www.schweighofer.at/en/the-company/about-us.html>
- See for example, Nostra Silva. Holzindustrie Schweighofer - The Main Consumer of Softwood Timber Illegally Exploited in Romania. (February 16, 2015). Retrieved from <http://www.nostrasilva.ro/activitati/holzindustrie-schweighofer-principala-consumator-al-lemnului-de-rasinose-exploatat-ilegal-romania/>, D.D. Reportaj În Premieră. The brotherhood of the forest and the foreign businessmen. (March 23, 2014). Antena 3. Video retrieved from <http://inpremiera.antena3.ro/reportaje/codrul-frate-cu-strainul-1-257.html>.
- Transparency International, 2015. Global Corruption Index 2015; Romanian customs data, 2010-2015.
- オウシュウトウヒはルーマニアで伐採される針葉樹の大半を占めるが、Schweighofer社は2015年に10万m³規模のオウシュウアカマツ原木をウクライナから輸入した。同社のWEBサイトには2015年にウクライナ国境近くのラウツィエ工場で日本市場向けのアカマツ集成材製造ラインを操業したと記載されている。Romanian National Institute of Statistics (2014); Romanian customs data 2015; Holzindustrie Schweighofer. News (Feb 17, 2015). New BEAM production begins in the Radauti saw mill. https://www.schweighofer.at/en/schweighofer-news.html?no_cache=1.
- EIA, 2015. *Stealing the Last Forest: Austria's largest timber company, land rights, and corruption in Romania*.
- とくに断りが無い限り、本報告書は2013年から2015年にかけて収集したEIAの内部調査報告書、写真、音声・映像資料をもとにしている。
- <http://schweighofer-initiative.org/en/holzindustrie-schweighofer-refutes-eia-organizations-accusations#post-1499>
- See EIA, 2015. *Stealing the Last Forest: Austria's largest timber company, land rights, and corruption in Romania*; Klawitter, N. (May 8, 2015). *Clear-Cutting Romania: Logging Threatens One of Europe's Last Virgin Forests*. Der Spiegel; Gepp, J. (March 14, 2016). *Serious allegations against timber company Schweighofer in Romania*. profil.
- FSC, 9 February 2016. Holzindustrie Schweighofer certification status update Bonn, Germany. <http://www.fsc-deutschland.de/preview/16-02-2016-update-zum-fsc-zertifikat-von-holzindustrie-schweighofer-a-935.pdf>.
- Romanian customs data, 2015.
- Law Concerning the Promotion of Procurement of Eco-friendly Goods and Services by the State and Other Entities (Green Purchasing Law), available at <http://www.env.gov.ro/en/laws/policy/green/1.pdf>.
- ルーマニア国家統計局 (INS) によれば、1990年から2011年の間の事業者1による伐採木材は3380万m³であった。出典: Romanian National Institute of Statistics (INS). (2013). Romanian Court of Accounts. (2013). *Sinteza Raportului de audit privind "Situația patrimoniului a fondului forestier din România, în perioada 1990-2012"* [Summary Audit Report "State of Romanian Forest Patrimony from 1990-2012"]. Bucharest.
- 例えば、事例1 Borsăを参照。
- OG nr. 32/2015 privind înființarea Gărzilor forestiere [Emergency Ordinance 32/2015 on the establishment of forest guards]. (2015). Official Gazette no. 474/30.06.2015.
- ルーマニア国家統計局 (INS) によれば、2008年から2014年の間の事業者1による伐採木材は1250万m³であった。出典: Romanian National Institute of Statistics (INS). (2014).
- 注: 土地返還プロセスとは、1948年に共産主義政府によって収容された土地について、元の所有者の子孫に返還するために、1990年代初めからルーマニア政府が執行している行ラプロセスのこと
- Romanian Court of Accounts. (2013). Summary Audit Report "State of Romanian Forest Patrimony from 1990-2012". Bucharest.
- Greenpeace Russia GIS Unit. (2012). *Forest Cover Change in Romania in 2000-2011*. Retrieved from <http://www.greenpeace.org/romania/Globa/romania/paduri/Despaduririle%20din%20Romania/Forestcover%20change%20in%20Romania%202000-2011.pdf>; Greenpeace Romania. (2012). *Romania cuts down 3 hectares of forest per hour!* Retrieved from <http://www.greenpeace.org/romania/ro/campanii/paduri/Activitati/Romania-cuts-down-3-hectares-of-forest-per-hour/>
- Romanian Court of Accounts. (2013). Summary Audit Report "State of Romanian Forest Patrimony from 1990-2012". Bucharest.
- Ibid.
- 2013年にSchweighofer社は46,500万ユーロの売上 (9,650万の利益) を記録した。Klawitter, N. (May 8, 2015). *Clear-Cutting Romania: Logging Threatens One of Europe's Last Virgin Forests*. Der Spiegel.
- 注: 前環境大臣 (Doina Pana氏) はSchweighofer社がルーマニアで操業を始めて以来、ルーマニア林産業では中小企業における50,000件もの雇用機会を失ったと推計している。Illegal Logging in Romania: Austrian Lumber Corporations Reap the Benefits. (July 3, 2015). We Are Anonymous. Retrieved from <http://anonih.com/illegal-logging-romania-austrian-lumber-corporations-reap-benefits/>
- See EIA 2015, Part 3: Case Studies
- See EIA 2015 case #6 Buzău, p.19, case #7 Corbu, p.20.
- RISE Project. Schweighofer under control: Timber Trafficking and Green Certificates Fraud. (August 21, 2015).
- Ministry of Environment, Water, and Forests (MMAP). (2015). MMAP a trimis Parchetului General rapoartele de control pe păduri [MMAP Prosecutor General is sent control reports on forests]. [Press release]. 出所: http://www.mmmediu.ro/app/webroot/uploads/files/2015-07-30_CP_controale_paduri.pdf.
- Ibid.
- 1990年から2012年の間、計300万ヘクタールのうち違法に返還された土地は561,000ヘクタールだったと推定されている。Romanian Court of Accounts. (2013). Summary Audit Report "State of Romanian Forest Patrimony from 1990-2012". Bucharest.
- EIA 2015 事例 No. 12, Sâmbăta, p.23を参照。
- EIA 2015 事例 No. 11, Retezat, p.22を参照。
- LG 46/2008. Forest Code Act 46/2008 (updated), Official Gazette no. 238 of March 27, 2008. Art 68-73. (Supplemented by: LG. 133/2015; Law no. 133/2015 amending and supplementing Law no. 46/2008- Forest Code. Official Gazette no. 411 of June 10, 2015.)
- Romanian National Institute of Statistics (INS). (2013).
- Romanian Court of Accounts. (2014). Summary Audit Report of the performance of the management of national forests during the period 2010 - 2013. Bucharest.
- Ibid.
- Law no. 46/2008. Forest Code. Official Gazette no. 238/27.03.2008. Art 19-27.
- Ibid.
- Ibid.
- EIA 2015, 事例 No. 6 Buzău, p.19; No. 7 Corbu, p.20を参照。
- 私的な通信。
- 伐採地、輸送、木材販売/出荷、木材在庫管理システム、一次製材所等、および最初に木材・木材製品をEU市場に持込む事業者について規定したEU木材規則 (no. 995/2010) に関する規則を承認した2014年の判決 (no. 470/2014 Official Gazette no. 470/08.10.2014).
- WWF Danube Carpathian Programme. (2005). *Illegal Logging in Romania*. Retrieved from <http://www.panda.org/homepage.cfm?19306/Illegal-logging-in-Romania-a-WWF-analysis>.
- SUMAL はSistem informational integrat de urmărire a materialelor lemnoaseの略称。2008年設立。GD No. 470/2014で改定された全国木材追跡システム。
- 伐採地、輸送、木材販売/出荷、木材在庫管理システム、一次製材所等、および最初に木材・木材製品をEU市場に持込む事業者について規定したEU木材規則 (no. 995/2010) に関する規則を承認した2014年の判決 (no. 470/2014) Official Gazette no. 470/08.10.2014.
- 私的な通信。
- WWF Danube Carpathian Programme. (2005). *Illegal Logging in Romania*. p.16. Retrieved from <http://www.panda.org/homepage.cfm?19306/Illegal-logging-in-Romania-a-WWF-analysis>.
- EIA 2015, 事例 No. 1, Borsă, p.16; 事例 No. 5, Nehoiașu, p.18参照。
- 私的な通信。2015年6月。
- National Anticorruption Directorate of Cluj. Dossier 24/P/2013. (March 29, 2013). Cluj Napoca.
- 事例 No. 2, Alredia, p.18; 事例 No. 3, Rădăuți sawmill, p.18を参照。
- EIA, 2015. *Stealing the Last Forest: Austria's largest timber company, land rights, and corruption in Romania*.
- 「ルーマニアのO.S. Cascade Empire (Schweighoferグループ) が管理するすべての森林はFSCの認証を受けている」。Holzindustrie Schweighofer. Forestry: Rooted in Nature. 出所: <https://www.schweighofer.at/en/forestry/forestry.html>
- EIAによる2014年ルーマニア税務記録の分析による。RISE Project (2015). Schweighofer Network: Who Cut and How they Won. 出所: <http://www.riseproject.ro/articol/reteaua-schweighofer-cine-a-taiat-si-cat-a-castigat/>
- 「このシステムにより違法伐採木材を加工したり市場に持ち込んだりすることが防げる」。Holzindustrie Schweighofer. News: Wood purchasing of Schweighofer Group is now PEFC certified. (May, 28, 2014). 出所: <https://www.schweighofer.at/en/schweighofer-news.html>. PEFC General Assembly, Chain of Custody of Forest Based Products - Requirements, PEFC ST 2002:2013. (May 24, 2013). 出所: <http://pefc.org/resources/technical-documentation/pefc-international-standards-2010/1193-chain-of-custody-of-forest-based-products-requirements-pefc-st-2002-2013>. ポイント5.6.2は以下のように述べる。「違法供給源 (問題の多い供給源3.9(a)または(b)) に由来すると判明しているまたは疑われる木材は、適切な文書による証拠が提示・検証され、供給された木材が「無視できるリスク」として分類されない限り加工してはならず、また市場での取引または市場への持ち込みをしてはならない。」
- Schweighoferの社員との私的な通信。2014年。
- Retezat forests are burning in Western European fireplaces. (December 22, 2014). Agent Green. Retrieved from <https://www.youtube.com/watch?v=H9vZjMjAmk&feature=youtu.be>
- Austrian Company Exposed Offering Bonuses for Illegal Romanian Timber. (April 27, 2015). Environmental Investigation Agency. 出所: <http://eia-global.org/news-media/austrian-company-exposed>
- Ministry of Environment, Water, and Forests (MMAP). (2015). MMAP Prosecutor General is sent control reports on forests. [Press release].
- RISE Project. Schweighofer under control: Timber Trafficking and Green Certificates Fraud. (August 21, 2015).
- Ibid.
- Ibid.
- 「我々は製材所の門のところで木材の由来を示す書類を確認している。合法であることがきちんと確認されて初めて納入される。そのようにして合法で書類が整っている丸太のみを受け入れ加工するようにしている」。Holzindustrie Schweighofer. News: A personal statement of Gerald Schweighofer. (May 8, 2015). 出所: <https://www.schweighofer.at/en/schweighofer-news.html>
- Schweighofer Leaks: Learn How to Buy Timber. (May, 15, 2015). Napoca News. Retrieved from <http://www.napocanews.ro/2015/05/schweighofer-leaks-afia-cum-se-poate-cumpara-lemn-illegal.html>
- <http://eia-global.org/blog/holzindustrie-schweighofer-breaks-promise-in-romania>
- https://www.schweighofer.at/fileadmin/files/all_en/Press/Reply_to_EIA_allegations_EN_16022016_weboptimized.pdf
- https://www.schweighofer.at/fileadmin/files/all_ro/Press/ro/2016.01.28_-_Comunicat_de_presa_HS_-_Certificate_FSC_EN.pdf
- <http://www.wwf.at/de/wwf-hinterfragt-juengste-fsc-zertifizierung-der-schweighofer-standorte/>
- https://vimeo.com/156549262?utm_source=email&utm_medium=vimeo-dcptranscode-201504&utm_campaign=28749
- Ibid.
- Ibid.
- Timber-online.net 21.02.2016. *Procurement is the determining factor for Schweighofer*. <https://www.timber-online.net/?id=2500%2C5490215%2C%2C>
- EIAが入手したSchweighofer社の数字。

参考文献(続き)

104. Holzindustrie Schweighofer. (September 9, 2014). Letter to Romanian Prime Minister Victor Ponta. Retrieved from <http://eia-global.org/news-media/leaked-letter>
105. Schweighofer internal company figures, obtained by EIA, Romanian customs data, 2015.
106. Romanian customs data
107. <http://www.eos-oes.eu/en/news.php?id=877>
108. Holzindustrie Schweighofer. News (Feb 17, 2015). New BEAM production begins in the Radauti saw mill. https://www.schweighofer.at/en/schweighofer-news.html?no_cache=1.
109. Romanian National Institute of Statistics, 2014.
110. http://ru.espreso.tv/article/2016/04/01/karpaty_bez_derevev_kak_v_ukrayne_voryut_lesa, CATHERINE RESCHUK, Source: ru.espreso.tv, APRIL 1, 2016. *Carpathian Mountains without trees. How forests are stolen in Ukraine*
111. <http://www.transparency.org/cpi2015#results-table>
112. FSC Controlled Wood risk assessment, SPECIFIC REQUIREMENTS, INTERPRETATION OF ANNEX 2B OF THE STANDARD FOR COMPANY EVALUATION OF FSC CONTROLLED WOOD FOR UKRAINE. (FSC-STD-40-005-V-2.1)
113. Ibid.
114. Peter Hirschberger, Forestconsulting, Improving FLEG in Ukraine, 2012.
115. Ibid.
116. http://ru.espreso.tv/article/2016/04/01/karpaty_bez_derevev_kak_v_ukrayne_voryut_lesa, CATHERINE RESCHUK, Source: ru.espreso.tv, APRIL 1, 2016. *Carpathian Mountains without trees. How forests are stolen in Ukraine*
117. Олена Логінова, 27.08.2015. Зона бізнесу: чорнобильський ліс на експорт (розслідування) <http://www.radiosvoboda.org/content/article/27212140.html>
118. Ibid.
119. FSC Controlled Wood risk assessment, SPECIFIC REQUIREMENTS, INTERPRETATION OF ANNEX 2B OF THE STANDARD FOR COMPANY EVALUATION OF FSC CONTROLLED WOOD FOR UKRAINE. (FSC-STD-40-005-V-2.1)
120. Romanian customs data, 2010–2015.
121. Ibid.
122. Ibid.
123. Ibid.
124. 私的な通信。
125. 私的な通信。
126. Law Concerning the Promotion of Procurement of Eco-friendly Goods and Services by the State and Other Entities (Green Purchasing Law), available at <http://www.env.go.jp/en/laws/policy/green/1.pdf>.
127. EU Timber Regulation (2013) in France, Germany, Italy, and the United Kingdom; 2008 amendments to the Lacey Act in United States; Wild Animal and Plant Protection and Regulation of International and Interprovincial Trade Act (amended 2010) in Canada; Illegal Logging Prohibition Act in Australia (2012).
128. G8 Gleneagles Environment and Development Ministerial Declaration 2005.
129. Law Concerning the Promotion of Procurement of Eco-friendly Goods and Services by the State and Other Entities (Green Purchasing Law), available at <http://www.env.go.jp/en/laws/policy/green/1.pdf>.
130. Ministry of Environment, Japan. Accessed June 29, 2012 at <http://www.env.go.jp/nature/shinrin/pamph2/05-6.pdf>.
131. Global Environmental Forum & FoE Japan, May 2014. *Survey of Legality Verification for Procurement of Timber and Wood Products*.
132. Romanian customs data, 2015.
133. http://www.chathamhouse.org/sites/files/chathamhouse/field/field_document/20141125/IllegalLoggingJapanMomii_Japanese.pdf
134. Indufor, 2016. *Review of Holzindustrie Schweighofer's Due Diligence System in View of the Legal Timber Procurement in Romania*. http://www.schweighofer-initiative.org/wp-content/uploads/2016/04/H5_Indufor-Communication-Report.pdf
135. Ibid.
136. Ibid.
137. <http://ec.europa.eu/environment/forests/pdf/Basi9%20minimum%20description%20of%20a%20DDDS.pdf>
138. EIA, 2015. *Stealing the Last Forest: Austria's largest timber company, land rights, and corruption in Romania*.
139. Indufor, 2016. *Review of Holzindustrie Schweighofer's Due Diligence System in View of the Legal Timber Procurement in Romania*.
140. FSC, 2014. *Questions and Answers about FSC and the EU Timber Regulation*, Revised November 2014. <https://ictsc.org/download-box-1517.htm>
141. Indufor, 2016. *Review of Holzindustrie Schweighofer's Due Diligence System in View of the Legal Timber Procurement in Romania*.
142. Ibid.
143. EIA, 2015. *Stealing the Last Forest: Austria's largest timber company, land rights, and corruption in Romania*.
144. Reidl, P. (September 18, 2008). Romania Fights against Illegal Timber Harvesting. *Wirtschaftsblatt*. Retrieved from http://wirtschaftsblatt.at/home/nachrichten/europa_00e/1070369/index?from=suche.intern.portal
145. EIA, 2015. *Stealing the Last Forest: Austria's largest timber company, land rights, and corruption in Romania*.
146. According to company statements, Schweighofer processed around 2.1 million m³ of Romanian softwoods in 2014. That same year, loggers cut 6.5 million m³ of softwood timber, according to the Romanian National Institute of Statistics. Thus, Schweighofer's mills used 32% of the country's softwood timber production in 2014. Sources: Schweighofer representative [Press conference]. (April 1, 2015). Bucharest. Retrieved from: <https://www.youtube.com/watch?v=YVUMf68Uz5U>; Romanian National Institute of Statistics (INS), (2014).
147. 私的な通信。
148. RISE Project. Schweighofer under control: Timber Trafficking and Green Certificates Fraud. (August 21, 2015).
149. Gepp, J. (March 14, 2016). *Serious allegations against timber company Schweighofer in Romania*, profil.
150. Austrian Company Exposed Offering Bonuses for Illegal Romanian Timber. (April 27, 2015). Environmental Investigation Agency. Retrieved from <http://eia-global.org/news-media/austrian-company-exposed>
151. 私的な通信。
152. Nostra Silva. *Evenimente: Unifi Salvăm Pădurea Românească—Cuij—9 Mai 2015 [Events: United Alliance to Save the Forest—CUJ—May 9, 2015]*. Retrieved from <http://www.nostrasilva.ro/eventimente/unifi-salvam-padurea-romaneasca-cuij-9-mai-2015/>.
153. 私的な通信。
154. http://www.chathamhouse.org/sites/files/chathamhouse/field/field_document/20141125/IllegalLoggingJapanMomiiJapanese.pdf

EIA - WASHINGTON, DC

P.O. Box 53343, Washington, DC 20009, USA

TEL +1 202 483 6621

FAX +1 202 986 8626

EMAIL info@eia-global.org

WWW.EIA-GLOBAL.ORG

